

「研修会等名称」

FDのための情報技術研修講習会

場所：追手門学院大学

期間：2019年2月26日～27日

1. 研修の内容

26日の全体会では「小中高の教育ICTの変化」、「ICTを用いた授業の支援」、「著作権法改正が大学教育に与える影響」についての講演があった。

小中高で、ICT活用による双方向型の授業革新や公務の情報化による教員の負担軽減等の試みが始まっていること、反転授業などのアクティブ・ラーニングの学修でICT活用が必須であること、また、教育の情報化に伴い、授業の中での第三者著作物の利用に留まらず、授業の過程(前後)での利用に伴う著作権問題が発生すること、その対策について学んだ(特に改正35条問題)。ICTツールによる教育については、ゲームフィクションを利用した様々な手法を会場でも実践した。

分科会では、26日に「モバイルによる教材作成」(iPhone/iPadを用いたビデオ作成とYouTube配信)、27日に「LMS活用編:レッスンとテストの作成」、「LMS活用編:ループリックの作成」に参加した。

「モバイルによる教材作成」(iPhone/iPadを用いたビデオ作成とYouTube配信)では、ほとんどオープンデータのツール(iBooks、iMovie、グーグルドライブ、Youtube、メモ等々)を使い、簡単に、映像が録画できたり配信できたりする方法について学んだ。とりわけ、パワポのPDFやその場での手書きでの音声入力講義等々、実際に利用している帝京大学ラーニングテクノロジー開発室所長の渡辺先生からさまざまな技法やコツを教わり、実際に自分でも映像を作った。

「LMS活用編:レッスンとテストの作成」では、ムードルにおけるテストの作り方と、レッスンと呼ばれるテキストと問題から構成されるフォームの作り方を学んだ。穴埋め問題を中心に問題の作り方を実践した。

「LMS活用編:ループリックの作成」では、やはりムードルにおいてループリック評価の作り方を学んだ。まず、渡辺先生が実際に理工系の授業で実践しているループリック評価の構成の方法や考え方等を学び、実際に自身の授業のためのループリック評価を作った。ムードルだけでは外部と共有できないので、グーグルフォームでも実践した。

これらの分科会の中でや昼食時、他大学の教員と情報交換ができた。具体的な新しい教育方法への取り組みなどを聞いた。

また、ICTを利用した新しい教育方法の可能性について、何人かの講師にさまざまな質問を行った。その中で、ある講師は、ポートフォリオとムードルの連動について実験的に取り組んでいることを聞いた。そのうち私情協の次のプログラムに現れるかもしれない。

2. 研修の成果

愛大でのムードル利用は増えつつある。利用されている授業を受ける学生から他の教員が利用を促されたり、教材を印刷(または依頼)するよりムードルにアップした方が欠席学生への対応も含め便利だという認識が広がったりしているためである。しかし、資料のアップ以上の利用者は少なく、私も長年利用していたがそれ以上の利用はしていなかった。今回、さまざまな利用のしかたがあり、しかもそれほど難しいことではないことがわかってとても参考になった。学内でもこのような研修をもっとやればよいと感じた。

学長裁量費による、現中での Mook 作成も始まっている。学生の学修成果を保証し確かな学力を身につけるためには、アクティブ・ラーニング等自己学習を進めること、そのためには ICT の活用が必須である。その点は、今回私情協加盟校から参加していた、関係部署の教員たちが皆痛感していたことでもわかる。興味深いのは、附属の高校教員が高大連携の中で大学に出向し進めているケース等であった。今後、加速度的に教育方法の変革に各大学が取り組む気配が感じられる。愛大はあまり新しい教育方法には(個人的な試みはあるとはいえ)取り組んでおらず、「学修評価の可視化」にかかわる学長補佐の役割としては、この情報収集は非常に重要であると感じた。

また、私自身、学内でのムードル研修には出ており、とても手厚いサービスではあるものの、ムードルのサポートスタッフは教育実践者でない点で、学内外の教育実践者のサポートが必要だと感じた。またムードルはどんどん進化しており、新しい機能(ポートフォリオ機能も付加されつつある)もより使っていくとよいと思われた。さらには、ムードル以外のオープンデータツールも利用方法を習得していけばよいと感じた。

これらの ICT ツールは、例えばルーブリック評価を学ぶ、それを外部の実習評価者と共有する等の教育方法とセットで学習されるものであると思われ、その点を意識した学内研修が重要であると思われる。

また、著作権の問題については、改正法との関係で大学が対処しなくてはならないので学習しておく必要があると感じた。

3. 授業への研修成果の反映状況

自身の授業で実際にテストやレッスンを作り、事前事後学習や自己学習に生かしたいと考える。また、講義映像等を作り、事前事後学習や自己学習に同様に生かしたいと考える。

レポート提出やミニツペーパーの提出についても、ムードルの管理機能を使うことで、学生のポートフォリオや学生の成績・評価の集計や分析に使用していきたいと考える。

学部長	学習・教育支援 センター委員長	学習・教育支援 センター委員会	名古屋教務課長	係
				